



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 469 (2017. 12. 11)

<今週のトピックス>

モバイルバンキングと小切手

Fintech という言葉が一般的になって、久しいですが、今回は米国のモバイルバンキングについて記したいと思います。米国銀行のモバイルバンキングは、おおむね各銀行一つのアプリに集約されており、残高照会や口座間の資金移動・各種支払いや銀行発行のクレジットカードの利用明細照会・返済ができるようになっていきます。

ご存知のように米国では「振込み」による資金移動は一般的ではなく、「小切手」を振り出して決済を実施しています。最近インターネット経由で日本のように自動引き落としを選択できる支払先も増えてきましたが、それでもまだ小切手は有力な決済手段になっています。その要因としては、日本の振込みに相当するワイヤトランスファーの手数料が高いことありますが、現地の人に聞くと、米国では請求書が間違っていることが良くあり、請求内容を確認してから支払いたいといった意見も出てきます。

そういった小切手社会を反映してかモバイルバンキングには「小切手振り出し代行」の機能があります。モバイルアプリに支払先の氏名・住所を登録し、支払い金額を入力すると銀行が小切手の振り出しと郵送を代行してくれるサービスです。手数料はかからず、手元のスマホでさっと手続きはできますが、その先はかなりアナログになり、実際の小切手が郵送され支払先への到着には約1週間かかります。

支払いについては効率的なのか非効率的なのか良く分からないサービスのような気もしますが、入金については画期的な方法がとられています。それは「小切手をスマホで撮影して入金」できるということです。

米国では小切手はイメージ(画像)処理をして良いという法律となっているため、可能となっています。スマホで裏表を撮影し、金額を入力。ここで小切手記載の額面と入力した金額が異なる場合には注意喚起がされます。確認ボタンを押せば、ほぼ翌日には資金化されます。資金化を確認した後、当該小切手は自身で裁断して破棄することになります。

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。